

平成25年2月13日

総務文教常任委員会 会議録 審査内容

◇会議録

- 1 日 時 平成25年2月13日
開会 9時55分 閉会 12時4分
- 2 場 所 幕別町役場5階会議室
- 3 出席者 6名
委員長 牧野茂敏
副委員長 野原恵子
委員 寺林俊幸 藤谷謹至 小島智恵 千葉幹雄
- 4 説明員 企画室長 伊藤博明 企画室副主幹 國安弘昭
企画室副主幹 河村伸二
- 4 事務局 局長 米川伸宜 課長 萬谷司 係長 金田恭之
- 5 審査事件 1 所管事務調査について
企画室に関する事項
(1) 町ホームページのリニューアルについて
(2) 住民活動の支援について
2 付託された陳情の審査について
・陳情第18号 「米海兵隊の垂直離着陸輸送機オスプレイの配備撤回を求める意見書」の提出を求める陳情書
3 その他
- 6 審査結果 別紙

委員長 牧野 茂敏

◇審査内容

- 委員長（牧野茂敏） それでは再開をいたしたいと思います。本日の2番目の議案でありますけれども、付託された陳情の審査についてであります。最初に事務局長から説明があります。
- 事務局長（米川伸宜） 陳情第18号であります。昨年12月5日に第1回の審査を行って、その際、次回への継続審査ということで2回目は昨年12月11日に行っております。その際に、資料といたしまして管内市町村の陳情書の審査状況などを配布させていただきました。採決には至りませんで、閉会中の継続審査となっております。
今回、12月11日以降、第2回の審査以降にお手元に新聞の切り抜きでございますが、空軍使用のC V22に関連する報道がございましたので、本日、配布させていただきました。以上でございます。
- 委員長（牧野茂敏） 今、事務局長からの説明の通り経過を申しあげさせていただきました。それでは陳情第18号について、今まで議論はいろいろ出ていたわけですが、改めてみなさんのご意見をお聞きしたいと思います。どうでしょうか。野原委員。
- 副委員長（野原恵子） その後の状況としましては、オスプレイの訓練の中で普天間基地の周辺では物が落下したとか、そういうことが発生しております。大体2tくらいのコンクリートの塊を輸送する訓練もされているということで、今回幸いにしてそういう大きなものは落下しなかった。ペットボトルということではあったのですが、沖縄のその周辺に住んでいる人たちには、増々不安が大きくなっているという状況も報道されております。
また、このオスプレイの導入を沖縄だけではなくて、今後日本全国の基地の中にも配備される計画が今、浮上しているということです。自衛隊のあるところにも広げていくという計画もされていると報道されております。
このオスプレイの配備に対しては、沖縄の41市町村の中で反対の集会も開かれていまして、連動して日本の基地が在るところにも沖縄の配備が全国的に広がると、騒音ですとかそういうものの被害が広がるということで反対行動も起きていまして、沖縄の代表団も建白書、昔のことばで言えば直訴状です。そういうものも41市町村長が国に対して行っているという状況もありまして、本当に配備に対しては反対の運動が大きく広がっているという状況が生まれていることも、やはり考えの中に入れていかなければならないと思っております。
- 委員長（牧野茂敏） ほかにご意見がありましたらお願いいたします。小島委員。
- 委員（小島智恵） いまペットボトルの落下等の話がありましたけれども、中国の動きを見ていると本当に最近エスカレートしてきております。みなさんご存知だと思いますけれども、領海侵犯が繰り返され、また領空侵犯も繰り返され、また先日2月5日に防衛大臣から発表がありましたけれども、1月30日に中国海軍の軍艦が海上自衛隊の護衛艦に対し射撃管制用のレーダーを照射した。1月30日の前ですけれども、19日にも別の軍艦が同様に照射を行った可能性が高いといったことが明らかになっている。さらに昨日は北朝鮮の3度目の核実験が行われ核を小型化してミサイルに乗せて、いろいろどういふ動きを今後するか、本当に注視しなければならないという状況かと思っております。
こういった国防の観点で、日本人として本当に日本の国を守っていかなくてはならないという状況にいまあると思うのですけれども、いまだこのような陳情がそのまま継続

審査でオスプレイ反対、オスプレイは危険だ。実際に事故率1.93%で安全なのですけれども、そういったオスプレイの危険性というよりも中国の侵略の方が危険だと、そう申したいと思います。そんなオスプレイ反対とかと言っている場合ではないです。オスプレイは逆に配備が必要だということでもあります。

さらには、こういったオスプレイ反対運動によって日米関係がこじれて米軍基地が撤退したら、どう責任を取られるのかということ。日本単独でいま何ができるのですか。もし基地が撤退したら、中国から大量の軍艦、軍機がすぐさまやってきて、あつという間に日本は占領されてしまいます。

以前から言われていますけれども、抑止力が大事。本当にこれ以上悪さをさせないようにするというのが大事なのではないかと思えます。そのためにもオスプレイ、CVの方も配備するという記事も出てきていますけれども、輸送用だけではなくこういったものも、それ以上のものも本当は持たなくてはいけない。持てるものは持って日米同盟をきちんと堅持して、中国の目から見て、まともに手を出しても勝ち目はない、もう無駄なのだ。中国を諦めさせるところまで、本物の抑止力を今後出していかなくてはならない。抑止力をつければ逆に戦争にならずに済んだりすると思えます。沖縄、日本を守り、平和をもたらす。その第1歩としてこのオスプレイが絶対に必要だと思います。

また、騒音という話もありますけれども、私が調べたところによりますと旧型のCH46のヘリコプターよりもMV22、オスプレイの場合は騒音が6倍静かであるという結論も出ているそうです。

2012年度予算で内閣府の沖縄振興予算では、2011年度当初予算に比べ636億円増の2,937億円が組まれております。中山知事が要求した3,000億円のほぼ満額となっておりますし、沖縄県独自の一括交付金制度も新設され、1,575億円も計上されております。

- 委員長（牧野茂敏） 小島委員、まとめてください。
- 委員（小島智恵） すみません。政府自体も基地周辺に住めないような制度を作っていたかなかったというのもまた問題でもあるし、あまりオスプレイが危険だということであれば人気のない辺野古への移設、こういったことも政府の方で考えていただきたいと思っております。
- 委員長（牧野茂敏） ほかに。寺林委員。
- 委員（寺林俊幸） オスプレイの配備に反対する陳情書ということで、総務文教常任委員会で議論を重ねてきているわけですが、その中で当時、話されていた危険性、これは当然まだ解消されていない。また、住民に対してしっかりと説明もなされていないまま配備計画が着々と進んでいるということは事実です。その間に小島委員が言われたように中国、北朝鮮と、日本を取り囲むアジア情勢は非常に大きな動きをしている。レーダー照射で一つボタンを押せば本当に大変な事態に陥るといようなことまで起きてしまったことを考えると、このオスプレイの配備については、当然、計画の中で中国と北朝鮮のけん制が主な目的であって、それが沖縄と岩国というようなことなのですから、これは本当に双方いろんなことの間接関係をしっかりと踏まえながら、この陳情に対しての議論を深めていかなくてはならないのではないかと、僕自身今思っているところでもあります。

強硬に考えられる方もいらっしゃると思うのですが、冷静になってしっかりした討議をしていかなくてはならないのではないかと思います。

- 委員長（牧野茂敏） 千葉委員。
- 委員（千葉幹雄） それぞれの方からご意見ありました。それぞれの考え方ですからい

いとか悪いとかいう問題ではありませんけれども、やはり11月にこの陳情書が出された以降、尖閣も含めた東アジアの状況というのはかなり変化をしてくているのだと思います。今、お話ありましたように尖閣の問題、対中国の問題ですけれども、あるいは北朝鮮の原爆の問題、ミサイルの問題含めて非常に不安定な状況になってきているわけであり、そういったことを考えると、単なるオスプレイはうるさいから危険だからだめだということだけで果たして本当に進むのかどうか。これは慎重に考えなくてはならない問題だと思います。

提出者のこれをずっと読んでいますと、やはり根っこには日米安保をどう考えるかということだと思えるのです。これが例えばオスプレイが静かで安全な飛行機であったとしても、日米安保条約そのものを否定すると、すべてアメリカ空軍の基地が日本にあること自体が反対なわけですから、そういったことを深読みしながら我々としては冷静な判断をしていかなくてはならないと思うのです。

そこで、結論から言うとやはり抑止力、これは本当に新聞等マスコミ等でみなさん十分ご理解はしているとは思いますが、この時期に抑止力を低下させてはいけないのだろうと私は思うのです。今、寺林委員が言ったように刻々こういう情勢が変化してきていますので、結論についてはいつ出るのかどうかわかりませんが、今日、出さなければならないということではありません。3月定例会もありますので、今日のところはそれぞれ現状認識をし合いながら、次回に向けてそれぞれの考え方をまとめてくる。また会派の中の調整もしていくということが必要なかと思えるので、今日のところは継続にすべきではないかと思えます。

- 委員長（牧野茂敏） ただ今、継続というご意見だったわけですが、みなさんのご意見はどうでしょうか。藤谷委員。
- 委員（藤谷謹至） 私も今回の陳情でオスプレイというものがどういうものか勉強させていただきまし、千葉委員、寺林委員が言ったように、安易に片づけられる問題ではないと思います。陳情者の意見もくみ取れる。しかし、安全であると、安全でないというのが相互にあって、本当の情報はどこなのだという、お互いに平行線で主張している部分があります。私もいろいろ家族の中でも、嫁さんに「オスプレイ、どう思うか」と言ったら、やはり報道の中でまずいのではないかと。安全でない、安全であるという二つの意見があるというインターネットを見せたのですけれども、これは難しいと、余談ですが、そういう話しになった。

やはり、これはもう少し慎重に継続審議ということにしたほうがよろしいのではないかと思います。以上です。

- 委員長（牧野茂敏） 3名の方から継続というようなご意見だったのですが、その方向でよろしいでしょうか。
- 委員（はい、の声あり）
- 委員長（牧野茂敏） それでは陳情第18号につきましては、引き続き継続審査ということにさせていただきます。よろしくお願いたします。次回の日程につきまして、事務局長。
- 事務局長（米川伸宜） 2月26日に3月定例会の議運がございます。その中で委員会の日程が協議されますので、おそらく3月5日初日あたりにそれぞれの委員会になるかと思えますが、事務局である程度、付託される議案等を基に原案等を考えておきたいと思っております。
- 委員長（牧野茂敏） そういったことでよろしくお願したいと思えます。それでは、

その他、何かありませんか。それでは以上で終わらせていただきますけれどもよろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして総務文教常任委員会を閉会いたしたいと思います。

(12：04 閉会)